

県立高校普通科の魅力化・特色化の検討にあたって

1 国の高等学校教育に対する考え方

新時代に対応した高等学校教育等の在り方について

【基本的な考え方】

- (前略) 高等学校には、多様な入学動機や進路希望、学習経験、言語環境など、様々な背景を持つ生徒が在籍していることから、義務教育において育成された資質・能力を更に発展させながら、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びを実現することが必要である。
- また、高校生の現状の一つとして、学校生活への満足度や学習意欲が中学校段階に比べて低下しており、高等学校における教育活動を、高校生を中心に据えることを改めて確認し、その学習意欲を喚起し、可能性及び能力を最大限に伸長するためのものへと転換することが急務である。
- (前略) 高等学校は初等中等教育段階最後の教育機関として、高等教育機関や実社会との接続機能を果たすことが求められており、(中略) 高等学校においては、社会経済の変化を踏まえながら、自己のキャリア形成と関連付けて生涯にわたって学び続けていけるよう、(中略) 学びに向かう力の育成やキャリア教育の充実を図ることが必要である。
- 高等学校の在り方の検討に当たっては、令和4(2022)年度から新しい高等学校学習指導要領の実施を見据えて、現在在籍している生徒及び今後入学してくる生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びが実現されるよう検討を進める必要がある。

《愛知県の取組》

- ・ あいちラーニング推進事業
- ・ 知の探究講座
- ・ 全日制単位制高校への改編

【各高等学校の特色化・魅力化】

- 各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針の策定(スクール・ポリシーの策定)
- * 各高等学校の存在意義や社会的役割等に基づき、各学校において育成を目指す資質・能力を明確化・具体化するとともに、学校全体の教育活動の組織的・計画的な改善に結実させることが不可欠である。(後略)

- 「普通教育を主とする学科」の弾力化・大綱化(普通科改革)

- * 現行法令上「普通教育を主とする学科」は普通科のみとされているが、約7割の高校生が通う学科を「普通科」として一括りに議論するのではなく、「普通教育を主とする学科」を置く各高等学校がそれぞれの特色化・魅力化に取り組むことを推進する観点から、各学校の取組を可視化し、情報発信を強化するため、各設置者の判断により、当該学科の特色・魅力ある教育内容を表現する名称を学科名とすることを可能とするための制度的な措置が求められる。
- * どのような学科を設置するかについては、各設置者が現在の国際社会、国家、地域社会を取り巻く環境や、高校生の多様な実態を踏まえて検討されるものであるが、例えば、以下のものが考えられる。
 - ・ 現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科
 - ・ 現代的な諸課題のうち、高等学校が立地する地元市町村を中心とする地域社会が抱える諸課題に対応し、地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、現在及び将来の地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む学科
 - ・ その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校の存在意義・社会的役割等に基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科
- * 現代的な諸課題という生きた事象を取り扱うに当たっては、教室内の学びだけでなく、実際の現場に赴いて諸課題の現状を目の当たりにしたり、最前線で課題解決に取り組む社会人の姿に学んだりすることが非常に重要である。このため、各学科の特質に応じて、国内外の高等教育機関や国際機関、国の機関、研究機関、地元市町村、企業・経済団体等の関係機関との連携・協働体制の構築が求められる。こうした連携・協働体制を構築するに当たっては、高等学校と関係機関とのコーディネート機能を担うコーディネーターを配置することも求められる。

《愛知県の取組》

- ・ 各学校におけるスクールポリシーの策定
- ・ 大学との包括協定
(愛知教育大学・愛知県立大学・愛知大学・名古屋外国語大学)
- ・ 普通科改革支援事業(惟信高校・美和高校)

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)(2021年1月)

普通科改革

- 高校生の約7割が在籍する普通科においては、これまでも高等教育機関や 産業界等との連携・協働の下で様々な教育を展開したり、地域社会の課題解決に貢献する活動を実践したりと先進的な取組を進める高等学校が存在する一方で、生徒の能力・適性や興味・関心等を踏まえた学びの実現という観点において課題があるとの指摘もなされている。
- 普通科は、ともすれば「普通」の名称から一斉的・画一的な学びの印象を持たれやすいが、生徒や地域の実情に応じた特色化・魅力化は普通科においても当然に求められるものである。各高等学校に求められる役割としては、例えば以下のようなものが考えられるところであり、(中略)各高等学校の特色・魅力を明らかにしていくことが求められる。
 - (例)
 - ・ 自らのキャリアをデザインする力の育成
 - ・ グローバルに活躍するリーダーや、国内外の社会課題の発見・解決に向けて対応できるリーダーとしての素養の育成
 - ・ サイエンスやテクノロジーの分野等において飛躍知を発見するイノベーターとしての素養の育成
 - ・ スポーツや文化芸術の分野で活躍するために必要となる素養の育成
 - ・ 我が国の経済社会の活力を維持し、成長分野の発展を担うために必要となる素養の育成
 - ・ 地域への課題意識を持ち、地域ならではの新しい価値を創造し、地域を支えるために必要となる力の育成
 - ・ 高等学校教育における資質・能力の育成の前提として、義務教育段階における学習内容の確実な定着
 - ・ 多様なニーズに対応した教育機会の提供による一人一人の能力・可能性の伸長
 - ・ これからの時代においても求められる教養教育の提供
- 各普通科における特色・魅力ある教育を行うに当たっては、従来の文系・理系の類型分けを普遍的なものとして位置付けるのではなく、文系・理系に捉われて、一人一人の生徒にとって将来のキャリア形成に必要な科目の学習の機会が確保されない状況を改め、総合的な探究の時間を軸として教科等横断的な学びに取り組むなど、生徒が多様な分野の学びに接することができるようにすることが重要である。

新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ（審議まとめ）～多様な生徒が社会とつながり、学ぶ意欲が育まれる魅力ある高等学校教育の実現に向けて～（2020年11月）

2 愛知県における普通科の現状と課題

- 学校により異なる普通科の魅力・特色が中学生に十分に伝わっていない
 - ・ 普通科高校には、学力が高く大学進学に実績を残す学校や、地域と連携した特色ある教育活動を展開する学校、きめ細かな指導で生徒一人ひとりに寄り添う学校、部活動で実績を残す学校など様々なタイプの学校があり、それぞれの学校に独自の校風や特色がある。しかし、こうした各学校の校風や特色が中学生にしっかりと伝わっておらず、ともすると学力レベルに偏って学校選択がされる傾向にある。
 - ・ きめ細かな指導を柱とした多種多様な学校が、各地域に存在するという県立高等学校の強みを生かした、県立ならではの魅力を発信していく必要がある。
- 新たなことに挑戦する意欲を育む学びへの変革が求められている
 - ・ 多くの普通科では、大学等への進学を念頭に、文型・理型に類型分けした学習が行われている。今後、産業構造や社会の大きな変容が見込まれる中、類型にとられない学際的な学びや、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びなど、生徒の多様な個性・ニーズに応じた、新たなことを学び、挑戦する意欲を育むための学びへの変革が普通科教育に求められている。
- 普通科へのコースの設置、時代の変化に対応したコースの見直し
 - ・ 一部の普通科高校に、コースを設置し、普通科の教育課程に専門科目等を積極的に導入することにより、生徒の実情に応じた多様な学習ニーズに応える取組を行ってきた。
 - ・ 2002年度に、本県初となる情報活用コース、福祉実践コース、国際コミュニケーションコースを設置し、その後、順次、設置を拡大した。また、コースを設置した普通科では、一部、総合学科や英語科・国際教養科への改編も行ってきた。
 - ・ 時代の変化や生徒の状況に応じたコースの見直し、運営体制の強化が必要となっている。

「県立高等学校再編将来構想」中学校卒業生数の急減期を見据えた県立高等学校の一層の魅力化・特色化と再編（2021年12月）